F/T09 フェスティバル/トーキョー

PRESS RELEASE

『個室都市 東京』

Port B

構成・演出：高山 明

11 月 15 日（日）～22 日（日）

於：池袋西口公園

© 蓮沼昌宏 Masahiro Hasunuma

池袋西口公園に個室のビデオインスタレーションが出現。宿泊も可能？

お問合せ：フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局　http://festival-tokyo.jp/
〒170-0001 東京都豊島区西巣鴨 4-9-1 NPO 法人アートネットワーク・ジャパン内 TEL 03-5961-5202/FAX 03-5961-5207
制作担当：及位友美 y-nozoki@anj.or.jp

作品について

Port B 最新作！　池袋西口公園を舞台に“東京のリアル”に挑む

　ツアー・パフォーマンスやインスタレーションなど、現実の都市、社会の記憶や風景、メディア等を引用し再構成する手法で、国内外から大きな注目と期待を集める Port B。F/T09 春ではその活動の集大成として、代表作『雲。家。』『サンシャイン 63』の 2 作品を再創造、同時再演し話題を呼んだ。F/T09 秋では、フェスティバル/トーキョーが共同製作として名を連ね、現代演劇の可能性を探求する新たなクリエーションに挑む。

　新作『個室都市　東京』の舞台は、池袋西口公園。多様な個が交わるこの公共の場所で、アーティスト・高山明が提示するのは、個室をユニットとしたインスタレーション、そこで展開する映像作品、そして新たなツアー・パフォーマンスである。都市に潜む様々なプライベート空間への綿密なリサーチや、そこで生活を営む人々への膨大なインタビュー等を通して、虚構と現実、プライベートとパブリックが交錯する新たな演劇作品が、企てられようとしている。

『個室都市　東京』という「場」を通して浮かび上がる“東京のリアル”。この秋フェスティバル/トーキョーで見逃せない一作となるに違いない。また、このプロジェクトは、フェスティバル/トーキョーでの世界初演後、オーストリアのウィーン芸術週間をはじめ、幾つかの都市での招聘公演を予定している。

『個室都市　東京』の3つの機能

「いま、ここ」のリアルに接続する『個室都市　東京』

　『個室都市　東京』では、池袋西口公園にプレハブ等を仮設し、個室をユニットとしインスタレーションを立ち上げる。池袋西口公園は、老若男女、国籍も様々な人たちが日常的に集まったり、通りすがったり、生活をしたりしている。そこに突如出現するハードとしての『個室都市　東京』は、多様な人たちのコミュニティの中に異物として混入されるのでも、そのるつぼの中に溶け込むわけでもない。このインスタレーションは多様な東京の様相を映し出す装置として、訪れた観客との対話が始まる「場」となるだろう。池袋西口公園という「いま、ここ」のリアルな「場」でしか成立しえない、Port B ならではの演劇的な仕掛けが、観客を待ち受ける。

ビデオ・インスタレーションの鑑賞

　『個室都市　東京』に訪れる観客は、その個室に設置された作品、ビデオ・インスタレーションを鑑賞することができる。その内容は、壁を一枚隔てた向こう側にいる、池袋西口公園に関わる人たちへのインタビュー映像となる予定。それらは、『個室都市　東京』の外側に居た・居るはずの人たちのプライベート、そしてその人たちを取り巻く都市の現実を映し出す作品として、単なる「鑑賞」の粋を超え、観るものに何らかの作用を及ぼすものとなるだろう。作品を観終わり、池袋西口公園に一歩踏み出した瞬間、そこに広が

る景色はどのように見えるだろうか。

なお、このビデオ・インスタレーションは、好きな時に訪れ、好きなだけ滞在することができるシステムを予定している（予約不要、1 時間 500 円〜、24 時間オープン予定）。

Port B が切り拓く、ツアー・パフォーマンスの新境地

この作品に訪れた観客は、オプションのメニューとして用意されたツアー等に参加することもできる。ツアーは池袋西口公園を基点として訪ね歩くことができる範囲のもので、参加者はナビゲーションに従いながら、東京に営む人々の日常生活を何らかの形で追体験するものとなる予定。これまで『東京/オリンピック』や『サンシャイン 62』、『サンシャイン 63』等、数々のツアー・パフォーマンスに挑み、その強いメッセージ性と、演劇の枠を逸脱した斬新さで演劇界に衝撃をもたらしてきた Port B。虚構と現実、プライベートとパブリックが交錯する当プロジェクトの中で、今度はどんなツアーが仕掛けられるのか、期待が高まる。

演出ノート

『個室都市 東京』ノート

高山 明

Port Bではここ数年、都市をインスタレーション化する観客参加型演劇を「ツアー・パフォーマンス」と呼んで発展させてきた。『個室都市 東京』はその延長線上にあるプロジェクトである。ただし今回は池袋西口公園という広場にこだわり、すでに存在するコミュニティ群と僕らが仮設するコミュニティがどのように干渉しあい、そこにどのような“場”が作られるのかを探ってみたい。

具体的には、池袋西口公園に「個室ビデオ店」を仮設する。ベンチや木の周りにたむろする人、宴会を楽しむ人、ナンパする人にされる人、ダンスの練習をする人、タバコを吸う人、寝泊まりする人、劇場に芝居を見に来る人、通勤や通学の路として使う人、たまたま通りがかった人など、この公園は朝から深夜まで24時間人の流れが絶えないのだが、老若男女、国籍も様々なそれらの人達に何十もの同じ質問をぶつけてみる。「東京は住みやすいですか ‥ 誰かに愛されていると思いますか ‥ あなたの夢はなんですか ‥ この公園は好きですか ‥ お友達の名前を教えてください ‥ あなたは誰ですか ‥ 等々」。それらの質問に答える人を映した何百本というビデオが、一人につき一本という形で受付に陳列されており、来場者はそこから選んだビデオを個室で見ることになる。モニターに映っている人達は個室の薄壁一枚隔てた向こう側、つまり池袋西口公園にいた人達であり、その大半は今もそこにいるはずの人達である。そしてまたそれを見ている自分も同じ公園にいる。そんな風に、この「ビデオ・インスタレーション」は内側が外側になり外側が内側になるような反転構造を持っており、来場者には単なるビデオ鑑賞にとどまらない経験をしてもらえるのではないかと考えている。

また現実の個室ビデオ店と同じく、ここはビデオを見るためだけでなく、簡単な食事をしたり、暇を潰したり、寒さをしのいだり、お喋りをしたり、眠ったりといった「生活空間」にもなればと考えている。それは「ビデオ・インスタレーション」への来場者だけでなく、日頃から公園に集まっている人達はもちろんのこと、来たいと思った人すべてに開かれている。しかし池袋西口公園という場それ自体がすでに持っている「地勢図」のようなものがあり、そこに建物を建てるということは、ゆるやかではあっても確かに存在するコミュニティ群のなかに、異物を挿入することを意味する。従って、時間帯や曜日によって変わる「地勢図」を把握しなければならないし、どこまでの「介入」が許され、そこに境界線を設定するとしたらどのようなものかといった事柄もリサーチしなければならないだろう。建物を環境から無害に切り離してしまうのでなく、かといって自然に出来た共生バランスを不用意に崩してしまうのでもなく、雑多な人々が共存する池袋西口公園の特徴を最大限に活かしつつ、「個室ビデオ店」をインストールすることで普段なら実現しないような出会いが生まれたり、既存の「地勢図」をいい意味で掻き回したりするような配置の仕方を探りたい。それは“今、ここ”に“人が集う”という演劇的可能性を、空間の構成という側面から探求する作業だと言える。またその動きを活性化するために、敢えて境界線を揺さぶるようなトークやイヴェントを企画する予定である。

それから「個室ビデオ店」にはそこを出発地点とした幾つかのツアーが用意されており、来場者はそれらに参加することができる。ツアーは朝、昼、晩といった時間帯によって、また訪問する先々の性格によって分けられるが、どのツアーも日常生活を「微分」するような機能を持っている。参加者はナビゲーションに従うかたちで実際

の町を訪ね歩き、時空間をレンタルする、人と話す、トイレに行く、ビデオを見る、食事をする、寝る・・といった“日常生活の身振り”を「それ専用の舞台」で“パフォーム”することで、「個室ビデオ店」を自分の日常生活と比較したり、あるいは逆に、「個室ビデオ店」が自分の生活や都市全体にも侵入・浸食していることを感知したりする機会を持つことになる。一人一人のビデオ映像と「個室ビデオ店」という場は、参加者のツアー体験のなかでいろいろに反芻され、それぞれを映しあい、参加者が見る様々な場所のイメージと重なり合いながら、“個室都市 東京”をモザイク絵のように浮かびあがらせることだろう。

アーティスト・プロフィール

高山明　Akira Takayama

演出家

1969 年生まれ。94 年より渡欧。演出助手として研鑽を重ね、多数の舞台、オペラ等に携わりながら演出・戯曲執筆を行う。帰国後 02 年ユニット Port B（ポルト・ビー）を結成。演劇を専門としない表現者たちとの共同作業によって、既存の演劇の枠組を超えた前衛的な作品を次々と発表。創作の拠点「にしすがも創造舎」がある池袋・巣鴨一体では、サンシャイン 60 が象徴する日本戦後史を巡る 3 部作として、舞台作品『雲。家。』、ツアー・パフォーマンス『サンシャイン 62』、演劇的インスタレーション『荒地』を発表し、演劇界のみならず現代アートの文脈からも大きな注目を集めた。F/T09 春では、これまでの活動の集大成として、『雲。家。』『サンシャイン 63』の 2 作品を再創造・同時再演し話題を呼んだ。現実の都市や社会に存在する記憶や風景、メディアなどを引用し再構成しながら作品化する手法は、「来るべきもの」としての現代演劇の可能性を提示する試みとして、国内はもとより海外のフェスティバルや美術展でも大きな注目と期待を集めている。

カンパニー・プロフィール

Port B（ポルト・ビー）

02 年東京にて結成。高山明がドイツで培った演出メソッドを叩き台に、演劇以外の活動に携わるアーティストや職人を中心に演劇的実験を繰り返す。
活動は多岐にわたる。「演劇（的）テクスト」に取り組んだ舞台には、ブレヒトの第一詩集『家庭用説教集』を素材とした『シアター X・ブレヒト演劇祭における 10 月 1 日／2 日の約 1 時間 20 分』（03 年）、H.ミュラー『ホラティ人』（05 年）、E.シュレーフ『ニーチェ』（06 年）、E.イェリネク『雲。家。』（07 年）がある。
他方、高島平をフィールドワークし団地で暮らす人達を舞台に招き入れた『Museum: Zero Hour ～J.L.ボルヘスと都市の記憶～』（04 年）や、隅田川をフィールドワークした成果と謡曲『隅田川』をクロスさせた『Re:Re:Re:place ～隅田川と古隅田川の行方（不明）～』（05 年）はドキュメンタリー性の強い舞台である。
近年は更に、実際の都市をインスタレーション化する“ツアー・パフォーマンス”なるものを企画。「おばあちゃんの原宿」巣鴨地蔵通りを舞台にした『一方通行路』（06 年）、東京観光の代名詞はとバスを使った『東京／オリンピック』（07 年）、池袋サンシャイン 60 の周囲を 5 人一組の参加者が巡った『サンシャイン 62』（08 年）、山口情報芸術センターでのプロジェクト『山口市営.P.』（08 年）は、各種メディアに取り上げられるなど好評を博した。
また、“演劇的インスタレーション”と称される作品の系譜に、旧豊島区立中央図書館における『荒地』（08 年）、旧ソウル駅駅舎を使った『東西南北』（08 年）、茨城県取手市井野団地での『団地大図鑑』（08 年）等があり、これらは現代美術の領域においても注目を集めた。
いずれの活動においても「演劇とは何か」という問いが根底にあり、「きたるべきもの」としての現代演劇を追求している。　　ウェブサイト： http://portb.net/

高山明 および PortB 作品上演歴

03 年 10 月　『シアターX ブレヒト的ブレヒト演劇祭における 10 月 1 日／2 日の約 1 時間 20 分』構成・演出（シアターX）
04 年 5 月　「ベルリン演劇祭・若手演劇人の為の国際フォーラム」参加
04 年 9 月　『Museum: Zero Hour ～J.L.ボルヘスと都市の記憶～』構成・演出（シアターX）
04 年 12 月　インスタレーション『inter-view』制作（ギャラリー・アップリンク）
05 年 3 月　H.ミュラー作『ホラティ人』構成・演出（シアターX）
05 年 5 月　ベルリン「Intransit 演劇祭」より招聘、パフォーマンス作品の構成・演出（世界文化の家）
05 年 12 月　『Re:Re:Re: place ～隅田川と古隅田川の行方（不明）～』構成・演出（アサヒ・アートスクア）
06 年 3 月　E.シュレーフ作『ニーチェ』演出（BankArt NYK ホール）
06 年 11 月　ツアー・パフォーマンス『一方通行路 ～サルタヒコへの旅～』構成・演出（巣鴨地蔵通商店街）
07 年 3 月　東京国際芸術祭にて E.イェリネク作『雲。家。』演出（にしすがも創造舎特設会場）
07 年 11 月　はとバス・ツアー・パフォーマンス『東京／オリンピック』構成・演出（東京全域）
08 年 3 月　東京国際芸術祭にて『東京／オリンピック』再演
08 年 3 月　ツアー・パフォーマンス『サンシャイン 6 2』構成・演出（池袋周辺地域）
08 年 6 月　演劇的インスタレーション『荒地』構成・演出（旧豊島区立中央図書館）
08 年 10 月　ソウルの現代美術展「プラットフォーム」にてインスタレーション『東西南北』制作（旧ソウル駅）
08 年 10 月　「取手アートプロジェクト」にてインスタレーション『団地大図鑑』制作（取手井野団地）
08 年 12 月　山口情報芸術センター にてツアー・パフォーマンス『山口市営 P』構成・演出
08 年 12 月　フォーラム型演劇公演『ディクテ・フォーラム』構成（横浜市内各所）
09 年 3 月　フェスティバル／トーキョー09 春にて E.イェリネク作『雲。家。』と『サンシャイン 63』を再創造・同時再演

塚本由晴（アトリエ・ワン） Yoshiharu Tsukamoto (Atelier Bow-Wow)

建築家

1965 年生まれ。87 年東京工業大学工学部建築学科卒業。87 年から 88 年までパリ建築大学ベルビル校。90 年東京工業大学大学院修士課程修了。92 年に貝島桃代とアトリエ・ワンを設立。94 年東京工業大学大学院博士課程修了。同大学大学院准教授,工学博士。UCLA, Harvard GSD などでも客員助教授を務める。主な受賞暦に、平成 11 年度東京建築士会住宅建築賞金賞（『ミニ・ハウス』99 年）、第 16 回吉岡賞（『ミニ・ハウス』00 年）他、American Wood Award（『ハウス・サイコ』01 年)、建築学会選集（『ガエ・ハウス』04 年）、グッドデザイン賞（『ハウス＆アトリエ・ワン』07 年）等多数。

キャスト/スタッフ

構成・演出	高山 明
空間設計・デザインアドバイザー	塚本由晴（アトリエ・ワン）
協力	高橋　寛
演出助手	山城大督
映像制作	宇賀神雅裕、玄　宇民、島本　塁
技術・音響	井上達夫
舞台監督	清水義幸＋カフンタ
舞台監督助手	江連亜花里
ツアー制作協力	佐藤慎也研究室（日本大学理工学部建築学科）
写真	蓮沼昌宏
ドキュメント・コーディネート	山城大督
出演	オーディション、リサーチ等により決定
製作	Port B
共同製作	フェスティバル/トーキョー
助成	財団法人セゾン文化財団 平成 21 年度文化芸術振興費補助金（芸術創造活動特別推進事業）
主催	フェスティバル/トーキョー、Port B

公演情報

会場　池袋西口公園

公演スケジュール

11/15 (日)	11/16 (月)	11/17 (火)	11/18 (水)	11/19 (木)	11/20 (金)	11/21 (土)	11/22 (日)
24 時間オープン（予定）							

チケット情報

入場料金　1 時間 500 円～、予約不要・24 時間オープン（予定）
F/T 回数券対象外

※詳細は、決定次第 HP 等にて発表。

写真/クレジット一覧

『個室都市 東京』 イメージ写真 © 蓮沼昌宏 Masahiro Hasunuma

F/T09 春 『サンシャイン 63』(09 年) ドキュメント写真 © 蓮沼昌宏 Masahiro Hasunuma

ポートレート:高山 明

クレジット不要

・ご利用になる場合は、写真家のクレジットを必ず併記してください。

・原則、トリミングおよび加工は不可。